

◇子どもに読書の習慣をつけさせたい小学生の保護者

【Q】 小学校3年生と5年生の子どもを持つ親です。子どもの読書離れが著しいといわれていますが、子どもたちには本をたくさん読み、感受性豊かになってほしいと願っています。子どもに読書をさせる方法を教えてください。

【A】 本を読むことで、情景や気持ちを想像する力が身に付きます。また、相手の気持ちを理解したり、語彙を増やして自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える表現の仕方を学んだり、読書には多くの長所があります。

読書の好きな保護者の子どもは、読書が好きという傾向が認められることも別の調査で報告されています。各学校では、朝読書や「小江戸読書マラソン」等の取り組みにより読書を啓発していますが、ご家庭でも次のような方法を試してみたいはいかがでしょうか。

①親子で同じ本を読んでもみる

ただ本を読むように言うだけでは習慣にはなりません。まず、お子さんと同じ本を読んでもみることです。読書経験を共有し内容について話をするのができたら、どんなにかすばらしいことでしょう。内容の読解に偏らずお子さんの感じたままを受け入れてあげることが大切です。本を選ぶ際にはあまり難しい本を選ばないように気を付けてください。

②読み聞かせの時間を設ける

次に、時間の許す限り読み聞かせをすることです。お子さんとゆっくり向き合う時間を持ってじっくりと本を読んであげてください。この場合は、少し難しいものでも構いません。

③図書館へ出かけてみる

お子さんと一緒に図書館に行って、静かな雰囲気の中で本を探してみたいはいかがでしょうか。きっとすてきな一冊に出会えることと思います。また、借りた本を家で読む時間を設けるのもいいでしょう。

子どもは大人の想像以上にテレビを中心とするマスメディアの影響を受け、そこで覚えた言葉をそのまま話し相手に使い、傷つけてしまうことがあります。親子で取り組む読書は読む力や考える力をつけるだけでなく、ご家庭のよりよい言語環境をも創り出します。名作と呼ばれる本には美しい日本語が溢れています。日本語を見直すためにも、ぜひ親子で取り組んでみてください。